

研究結果報告書

東アジア勸善書の移動と庶民教育：特に六諭衍義を中心として

所属：東明大学校 国際学部 日本学科

役職：教授

氏名：成 海俊

《六諭衍義》は、1388年明代の太祖洪武帝が、民衆教化のため製作・公表した勅撰書《教民榜文》の「六諭」に、清代の范鋌が解説を加えたものである。いわゆる、清代の范鋌が完成した《六諭衍義》は、1708年琉球國の政治家であった程順則によって琉球の庶民道德書になった。彼が当時、中國で流行した《六諭衍義》に目を留めた理由は、人間の心を善に醇化させるのにふさわしい本であると判断したからである。

《六諭衍義》はその後、琉球から薩摩藩の島津吉貴によって、1719年8代將軍徳川吉宗に献上された。吉宗の命により当時の著名な儒學者である荻生徂徠や室鳩巢などの儒學者によって1721年日本的啓蒙書として衣替えし、分かりやすい日本語解説書もつけた。両思想家によって編纂された《六諭衍義》は、1722年に4月以降《六諭衍義大意》など名を異にする多くの版を繰り返しながら当時の教育機關である藩校や寺子屋などを通して道德書として広がった。その後、明治として政權が変った後には明治維新の「教育勅語」にも影響を与えた。

そればかりではなく中国の「六諭」は、すでに朝鮮の地方の郷人たちの互いの助け合う約束であった「郷約」にも関わった。「六諭」は、朝鮮の郷約に受容された後、近代日本の植民地時代には、日本から傳播された《六諭衍義》と《六諭衍義大意》が朝鮮の児童の道德教育にも関わった。それで本研究では、中國・日本・韓國などに移動した《六諭衍義》の東アジア各國の受容とその影響を文化的・倫理的影響に着目した。具體的には中國で郷約と接木された後、郷村秩序の維持と相互扶助の役割を担当した「六諭」および《六諭衍義》の時代的背景とその移動を中心として考察した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- 1、東アジア《六論衍義》の移動・成海俊・韓国日本研究總聯合會 第8回國際學術大會・2019年4月20日(土)・韓国啓明大學校
- 2、退溪の仁愛觀と琉球程順則のチムグクル(退溪的仁愛觀與琉球程順則的肝心)・成海俊・第3回中國陽明學會國際學術大會(第三屆中國陽明心學高峰論壇分論壇東亞世界的陽明學)・2019年5月17日-5月19日・中國紹興市紹興飯店(紹興ホテル)
- 3、琉球佛教と高麗との関連・成海俊・韓琉文化研究所 第3回學術大會・2020年2月9日-2月12日・ホテルモンタン博多

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- 1、琉球の道德書六論衍義の版本考察・成海俊・退溪學論叢33集・2019年6月30日
- 2、東アジア六論衍義の発生と特徴・成海俊・退溪學論叢34集・2019年12月30日

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

- 1、生活明心宝鑑(생활 명심보감)・成海俊・新雅社・2019年8月20日
- 2、日常の中の人文学(일상 속의 인문학)・成海俊・新雅社・2019年8月31日